

常により良い日本をつくる努力を続けること

戦後の日本及び日本人の多くは、背骨の無い軟体動物のような、芯のない、目的を失った経済的な価値にのみ意識のある生き方をしてきました。

軍隊を持たず、自国を自国が守れない国。日本国民が、他国から拉致されても取り戻せない国。人命は地球よりも重いと、テロに屈する国。隣国から、ありもしない難癖を付けられ、安易に謝罪し、国民の血税をむしり取られている国。

このように、先進国の中では、ありえない、極めて特異な判断基準・価値基準を長い間、受け入れてきたのです。教育において、社会において、政治において、家庭においても例外ではなかったのです。

その最大の原因が「大東亜戦争」にあることは間違いありません。

そもそも、戦争は最終的な“外交手段の一つ”であり、片方が正義で、相手が不正義であるはずがありません。単純に云えば、どっちもどっちなのです。

もちろん、戦争は極力、避けるべきです。決して、これを肯定したり、まして勧めるものではありません。

残念ながら、この戦争の総括が正しく出来なかったことが、戦後の我々の生き方を、大きく偏らせたのです。今一度、歴史の真実を自分の手で、頭で考える必要があります。

本当に、我が国は、悪魔のような侵略戦争をしたのでしょうか？

本当に、20万人を殺害したという、南京大虐殺はあったのでしょうか？

本当に、従軍慰安婦の問題はあったのでしょうか？日本だけのことでしょうか？

マッカーサーの米上院（1951年）での、日本の戦争責任についての発言、「主として自衛のため余儀なくされたもの」だったを、どう受け取るのでしょうか。

更に遡れば、1900年の「義和団の乱」における、柴五郎の冷静沈着な、武士道的働きや、1918年のパリ講和会議での、世界初の「人種差別撤廃」の提案等、日本の姿勢や行動を、もっともっと見直すべきです。

それだからこそ、日本人が日本人としての誇りと自信が取り戻せるのです。

それだからこそ、常により良い日本をつくる努力が続けられるのです。

それだからこそ、経営に自信を持ち、熱い気持ちで仕事に取り組めるのです。

幸い、日本には、悠久の歴史があり、世界に誇れる天皇陛下がいて下さいます。

その陛下が「常により良い日本をつくる努力を続けること」と、我々に、進むべき道を明示して下さいます。

社長、まず中小企業を経営する我々から、歴史と伝統・精神と文化を学び、日本人が失った自信を取り戻し、誇りを持って、日々の仕事に邁進して参りましょう。



今月のポイント

「温故知新」

共に学んで参りましょう。